ピジフルメトフェン

I. 農薬の製造に用いられる農薬原体の規格(案)

	有効成分							
一般名	化学名	構造式	含有濃度					
ピジフルメトフェン	3-(ジフルオロメチル)-N-メトキシ-1- メチル-N-[(RS)-1-メチル-2-(2,4,6- トリクロロフェニル)エチル]-1H-ピラゾール- 4-カルホ゛キサミト゛	CI CH ₃ CH ₃ N N N CI CH ₃ O F F	980 g/kg 以上					

農薬原体中のピジフルメトフェンの分析法

ピジフルメトフェンの農薬原体をアセトニトリルで溶解し、C18 カラムを用いて高速液体 クロマトグラフ (HPLC) によりアセトニトリル及び 0.1 %リン酸水溶液の濃度勾配で分離し、紫外吸収 (UV) 検出器 (検出波長: 230 nm) によりピジフルメトフェンを検出及び定量する。 定量には絶対検量線法を用いる。

Ⅱ. ピジフルメトフェンの農薬原体の組成に係る評価概要

1. 申請者

シンジェンタジャパン株式会社

2. 有効成分の基本情報

2.1 登録名 ピジフルメトフェン

3-(ジフルオロメチル)-N-メトキシ-1-メチル-N-[(RS)-1-メチル-2-(2,4,6-

トリクロロフェニル)エチル]-1*H*-じ。ラソ、ール-4-カルホ、キサミト、

2.2 一般名 pydiflumetofen (ISO)

2.3 化学名

IUPAC 名: 3-(difluoromethyl)-*N*-methoxy-1-methyl-*N*-[(*RS*)-1-methyl-2-(2,4,6-

trichlorophenyl)ethyl]-1H-pyrazole-4-carboxamide

CAS 名 : 3-(difluoromethyl)-*N*-methoxy-1-methyl-*N*-[1-methyl-2-(2,4,6-

trichlorophenyl)ethyl]-1H-pyrazole-4-carboxamide

(CAS No. 1228284-64-7)

2.4 コード番号 SYN545974

2.5 分子式、構造式、分子量

分子式 C₁₆H₁₆Cl₃F₂N₃O₂

構造式

分子量 426.67

3. 有効成分の物理的・化学的性状

表 3-1: 有効成分の物理的・化学的性状

		試験項目	純度 (%)	試験方法	試験	結果	資料		
蒸気圧		99.5	OECD 104 ガス飽和法	1.84 × 10 ⁻⁸ Pa (20 °C) 5.30 × 10 ⁻⁸ Pa (25 °C)		3-1			
融点			99.5	OECD 102 DSC	112.0~	112.0∼113.9 °C			
		沸点	99.5	OECD 103 DSC		不能 いら熱分解)	3-3		
		熱安定性	98.5	OECD 113 DSC/TGA法	200 ℃ 3	まで安定	3-4		
		水	99.5	OECD 105 カラム溶出法	1.5 mg/I	L (25 °C)	3-5		
		n-ヘキサン			0.27 g/I	∠ (25 °C)			
溶		トルエン			67 g/L	(25 ℃)			
解	有	アセトン			220 g/L	. (25 °C)			
•	機溶	メタノール	98.5	CIPAC MT157.3 フラスコ法	26 g/L (25 °C)		3-6		
度	媒	1-オクタノール			7.2 g/L (25 °C)				
		ジクロロメタン			>500 g/L (25 °C)				
		酢酸エチル			130 g/L (25 °C)				
		解離定数	99.5	OECD 112 分光光度法	解離せず		3-7		
1-才:		ソール/水分配係数 (log P _{ow})	99.5	OECD 107 フラスコ振とう法	3.8 (2	25 °C)	3-8		
	t	叩水分解性	97.8	OECD 111		完 9、50℃、5日間)	3-9		
	水中光分解性 97.8		97.8 OECD 316		半減期 75 日 (pH 7、25 ℃、26 W/m²、300~400 nm) 半減期 128 日		3-10		
			99.2		+ (成列 128 日 (pH 7、25 °C、26 W/m²、300~400 nm)				
						WI NAME OF THE PARTY.			
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)				
			(11111)	中性 (pH 7)	(Linoi ciii)				
		99.5	230	0.6081	17736	3-11			
		99.3		酸性 (pH 1)		3-11			
			230	0.6263	18267				
				220	アルカリ性 (pH 13)	17850			
				230	0.6120	1/830			

4. 農薬原体の組成分析

ピジフルメトフェンの農薬原体の組成分析に用いられた分析法は、ピジフルメトフェン及び 1g/kg 以上含有されている不純物について、選択性、検量線の直線性、精確さ及び併行精度が確認されており、科学的に妥当であった。

農薬の製造に用いられる農薬原体の組成分析において、定量された分析対象の含有濃度の合計は993~996 g/kg であった。

5. 有効成分の毒性

ピジフルメトフェンの ¹⁴C 標識体及び農薬原体を用いた動物代謝試験並びにピジフルメトフェンの農薬原体を用いた急性毒性試験、短期毒性試験、遺伝毒性試験、長期毒性試験、発がん性試験、生殖・発生毒性試験、神経毒性試験、生体機能への影響試験及びメカニズム等その他の試験の結果概要を表 5-1 に示す。

表 5-1: 有効成分の毒性試験の結果概要

実験動物代謝

GLP (資料 5-1~5-5)

(1) ラット

単回経口投与ラットにおいては、168 時間後までに、 $300 \, \text{mg/kg}$ 体重(雄)及び $100 \, \text{mg/kg}$ 体重(雌)投与(高用量)では総投与放射性物質(TAR)の $84\sim92$ %が糞中に、 $6.7\sim15$ %TAR が尿中に排泄された。 $5 \, \text{mg/kg}$ 体重投与(低用量)では $67\sim76$ %TAR が糞中に、 $18\sim27$ %TAR が尿中に排泄された。

単回経口投与胆管カニューレ挿入ラットにおいては、72 時間後までに、高用量の雄では 76~80 %TAR が糞中に、2.4~4.3 %TAR が尿中に、15~19 %TAR が胆汁中に排泄され、雌では 43~49 %TAR が糞中に、7.1~15 %TAR が尿中に、36~41 %TAR が胆汁中に排泄された。低用量では、10~15 %TAR が糞中に、6.4~13 %TAR が尿中に、66~81 %TAR が胆汁中に排泄された。

胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカス中の放射性物質の合計から、ピジフルメトフェンを経口投与した場合の吸収率は、高用量の雄では $18\sim25$ %、雌では $49\sim56$ %、低用量では $81\sim88$ %と推定された。

単回経口投与ラットにおける臓器及び組織中の放射性物質濃度は、 T_{max} 付近(高用量:8 時間後、低用量:0.5 \sim 2 時間後)では、肝臓(高用量:40 \sim 81 mg/kg、低用量:8.6 \sim 13 mg/kg)、腎臓(高用量:14 \sim 29 mg/kg、低用量:2.3 \sim 3.5 mg/kg)、副腎(高用量:16 \sim 22 mg/kg、低用量:0.91 \sim 5.3 mg/kg)、で高かった。

単回経口投与ラットにおいては、糞中のピジフルメトフェンは、高用量では 31~48 %TAR、低用量では 2.2~ 3.9 %TAR であり、主要な代謝物は、代謝物 Ah2(高用量:3.9~11 %TAR、低用量:3.0~8.2 %TAR)、代謝物 Uh(高用量:2.1~2.9 %TAR、低用量:2.1~8.1 %TAR)、代謝物 Ad(高用量:3.0~4.6 %TAR、低用量:1.4~6.0 %TAR)、代謝物 D(高用量:1.1~5.3 %TAR、低用量:2.30~3.00 %TAR)、代謝物 L(高用量:3.00 %TAR)、低用量:3.00 %TAR、低用量:3.00 %TAR)、代謝物 P(高用量:3.00 %TAR、低用量:3.00 %TAR)、代謝物 P(高用量:3.00 %TAR)、代謝物 P(高用量:3.00 %TAR)、代

尿中のピジフルメトフェンは、高用量では ND~0.1 %TAR であり、低用量では検出されなかった。主要な代謝物は、代謝物 H-sul(高用量: 2.5~4.6 %TAR、低用量: 7.8~15 %TAR)、代謝物 L(高用量: 2.1~2.9 %TAR、低用量: 4.3~8.9 %TAR)であった。

胆汁中のピジフルメトフェンは、高用量では ND~0.2 %TAR であり、低用量では検出されなかった。主要な代謝物は、代謝物 Ah-glu(高用量: 4.9~12 %TAR、低用量: 11~22 %TAR)、代謝物 C-glu(高用量: 1.0~5.7 %TAR、低用量: 4.6~14 %TAR)、代謝物 Ch-glu(高用量: 1.7~3.8 %TAR、低用量: 1.4~9.9 %TAR)、代謝物 R-glu(高用量: 0.6 %TAR、低用量: 9.9 %TAR)であった。

血漿中のピジフルメトフェンは、高用量では $1.9\sim4.9$ %AUC、低用量では $0.5\sim5.2$ % AUC であり、主要な代謝物は、代謝物 H-sul(高用量: $32\sim44$ % AUC、低用量:41 % AUC)、代謝物 F(高用量: $13\sim15$ % AUC、低用量: $9.5\sim15$ % AUC)、代謝物 I -sul(高用量: $4.8\sim9.2$ % AUC、低用量: $6.1\sim9.3$ % AUC)、代謝物 L(高用量: $4.8\sim9.2$ % AUC、低用量: $7.7\sim8.1$ % AUC)であった。

ラットに経口投与されたピジフルメトフェンの主要代謝経路は、水酸化による代謝物 Ah1 及び代謝物 Ah2 の生成、脱メチル化による代謝物 C 及び代謝物 D の生成、ベンジル位メチレン基の開裂による代謝物 H 及び代

謝物 L の生成、アミド結合の開裂による代謝物 F の生成と、それらに引き続くグルクロン酸又は硫酸抱合と考えられた。

(2) マウス

単回経口投与マウスにおいては、168 時間後までに、 $300\,\mathrm{mg/kg}$ 体重投与(高用量)では $76\sim95\,\%$ TAR が糞中に、 $7.2\sim15\,\%$ TAR が尿中に排泄された。 $10\,\mathrm{mg/kg}$ 体重投与(低用量)では $63\sim78\,\%$ TAR が糞中に、 $15\sim30\,\%$ TAR が尿中に排泄された。

単回経口投与マウスにおいては、糞中のピジフルメトフェンは、高用量では $37\sim49\%$ TAR、低用量では $0.6\sim4.4\%$ TAR であり、主要な代謝物は、代謝物 Uh(高用量: $4.9\sim16\%$ TAR、低用量: $11\sim14\%$ TAR)、代謝物 Ah2(高用量: $2.9\sim6.7\%$ TAR、低用量: $5.4\sim11\%$ TAR)、代謝物 Sh(高用量: $1.7\sim5.8\%$ TAR、低用量: $4.1\sim9.3\%$ TAR)、代謝物 D(高用量: $1.9\sim6.0\%$ TAR、低用量: $2.0\sim6.0\%$ TAR)、代謝物 Ad(高用量: $0.8\sim4.7\%$ TAR、低用量: $3.8\sim5.8\%$ TAR)であった。

尿中にピジフルメトフェンは検出されず、主要な代謝物は、代謝物 L (高用量: $2.2\sim3.9$ %TAR、低用量: $6.2\sim9.4$ %TAR)、代謝物 H-sul (高用量: $2.3\sim3.6$ %TAR、低用量: $5.3\sim6.4$ %TAR) であった。

マウスに経口投与されたピジフルメトフェンの主要代謝経路は、水酸化による代謝物 Ah2 の生成、脱メチル化による代謝物 D、代謝物 S 及び代謝物 U の生成、ベンジル位メチレン基の開裂による代謝物 H 及び代謝物 L の生成と、それらに引き続くグルクロン酸及び硫酸抱合と考えられた。

急性毒性

試験	LD50 又はLC50	観察された症状
急性経口毒性	LD ₅₀	5000 mg/kg 体重
ラット	雌	活動低下
農薬原体、Lot. SMU2EP12007	>5000 mg/kg 体重	死亡なし
純度 98.5 %		
GLP (資料 5-6)		
急性経皮毒性	LD ₅₀	5000 mg/kg 体重
ラット	雌雄	活動低下
農薬原体、Lot. SMU2EP12007	>5000 mg/kg 体重	死亡なし
純度 98.5 %		
GLP (資料 5-7)		
急性吸入毒性(エアロゾル)	4 時間 LC50	5.11 mg/L
ラット	雌雄	死亡(雌1例)、努力性呼吸、喘ぎ呼吸、喘鳴呼吸、
農薬原体、Lot. SMU2EP12007	>5.11 mg/L	くしゃみ、活動低下、不活発、運動失調
純度 98.5 %		
GLP (資料 5-8)		
試験		結果
試験 皮膚刺激性	刺激性は認められなかった	
	刺激性は認められなかった	
皮膚刺激性	刺激性は認められなかった	
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	刺激性は認められなかった	
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007		<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性	投与1時間後に結膜の軽度	
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ		<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007	投与1時間後に結膜の軽度	<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	投与1時間後に結膜の軽度	<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-10)	投与 1 時間後に結膜の軽度 後に消失	<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-10) 皮膚感作性 (LLNA 法)	投与1時間後に結膜の軽度	<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-10) 皮膚感作性 (LLNA 法) マウス	投与 1 時間後に結膜の軽度 後に消失	<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-10) 皮膚感作性 (LLNA 法) マウス 農薬原体、Lot. SMU2EP12007	投与 1 時間後に結膜の軽度 後に消失	<u>-</u>
皮膚刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-9) 眼刺激性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-10) 皮膚感作性 (LLNA 法) マウス	投与 1 時間後に結膜の軽度 後に消失	<u>-</u>

短期毒性					
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOA (mg/kg 存		所見	
90 日間反復経口投与毒性 ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-12)	0、250、1500、8000、 16000 ppm 雄:0、18.6、111、578、1190 雌:0、21.6、127、727、1330	雄:18.6 雌:127		8000 ppm 以上 雌雄:体重増加抑制、肝絶対及び 量増加、肝細胞肥大、甲状 上皮細胞肥大 等 1500 ppm 雄:肝絶対及び補正重量増加、 肥大、甲状腺ろ胞上皮細胞 雌:毒性所見なし	腺ろ胞 肝細胞
90 日間反復経口投与毒性 マウス 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-13)	0、100、500、 4000、7000 ppm 雄:0、17.5、81.6、630、1160 雌:0、20.4、106、846、1480	雄:81.6 雌:846		7000 ppm 雌雄: Chol 及び TG 増加、肝絶対 正重量増加、小葉中心性肝 大 4000 ppm 雄: Chol 増加、肝絶対及び補正 加、小葉中心性肝細胞肥力 雌: 毒性所見なし	細胞肥 重量増
90日間反復経口投与毒性 イヌ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-14)	0、30、300、1000	雄:30 雌:30		1000 mg/kg 体重/日 雌雄: 体重減少/増加抑制、ALP 増 絶対、比及び補正重量増加 胞肥大 等 300 mg/kg 体重/日 雄: ALP 及び TG 増加、肝絶対 び補正重量増加 雌: 体重減少/増加抑制	、肝細
1年間反復経口投与毒性 イヌ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-15)	0,30,100,300	雄:100 雌:100		300 mg/kg 体重/日 雄: ALP、GGT 及び TG 増加、 甲状腺絶対、比及び補正重 雌: ALP 増加、肝絶対、比及び 重量増加	量増加
28日間反復経皮投与毒性 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料5-16)	0、100、300、1000 (6 時間/日、5 日間/週)	雄:1000 雌:1000		毒性所見なし	
遺伝毒性	ı				
試験	試験系			試験濃度	結果
復帰突然変異(Ames) 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-17)	Salmonella typhimurium TA98、TA100、TA1535、Ta Escherichia coli WP2(pKM101)、 WP2 uvrA(pKM101)株	A1537 株	3~500	0 μg/プレート(+/-S9)	陰性
復帰突然変異(Ames) 農薬原体、Lot. SMU4FL762 純度 96.5 % GLP (資料 5-18)	S. typhimurium TA98、TA100、TA1535、TA E. coli WP2(pKM101)、 WP2 uvrA(pKM101)株	A1537 株	3~500	0 μg/プレート(+/-S9)	陰性

Г					Ι.
遺伝子突然変異	マウスリンパ腫細胞			\sim 60.0 µg/mL(+/-S9)	陰性
農薬原体	(L5178Y/TK ^{+/-})			時間処理)	
Lot. SMU2EP12007				\sim 90.0 μ g/mL(+S9)	
純度 98.5 %				\sim 60.0 μ g/mL(-S9)	
GLP (資料 5-19)			(4	時間処理)	
			340.	$0\sim$ 110 μg/mL(+S9)	
			(4	時間処理)	
染色体異常	ヒトリンパ球		116.1	\sim 49.2 μ g/mL(+S9)	陽性1
農薬原体、Lot. SMU2EP12007			(4	時間処理、18時間培養)	
純度 98.5 %			16.1	\sim 151 µg/mL(-S9)	
GLP (資料 5-20)			(4	時間処理、18時間培養)	
			②9.2∼	~4,330 μg/mL(+S9)	
			(4	時間処理、18時間培養)	
			5.3~	~16.1 μg/mL(-S9)	
			(22	2時間処理)	
			③3.0∼	~40.0 μg/mL(-S9)	
				! 時間処理)	
小核	マウス (骨髄細胞)		500,10	000、2000 mg/kg 体重	陰性
農薬原体、Lot. SMU2EP12007	(一群雄7匹)		(500,	1000 mg/kg 体重投与群)	
純度 98.5%			単回	経口投与 24 時間後に採取	
GLP (資料 5-21)			(2000) mg/kg 体重投与群)	
			単回	経口投与24及び48時間後に採取	
小核	マウス (骨髄細胞)		500,10	000、2000 mg/kg 体重	陰性
農薬原体、Lot. SMU4FL762	(一群雄7匹)			1000 mg/kg 体重投与群)	
純度 96.5 %				経口投与 24 時間後に採取	
GLP (資料 5-22)			(2000	mg/kg 体重投与群)	
				経口投与24及び48時間後に採取	
長期毒性及び発がん性					•
-1. F/A	投与量	NOA	EL	37.0	
試験	(mg/kg 体重/日)	(mg/kg 体	重/日)	所見	

試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
2年間反復経口投与毒性/	雄:0、200、1000、6000 ppm	雄:9.9	雄
発がん性併合	雌:0、150、450、1500 ppm	雌:10.2	6000 ppm
ラット			体重增加抑制、摂餌量減少、肝絶対及
農薬原体、Lot. SMU2EP12007	雄:0、9.9、51.0、319		び補正重量増加、肝細胞肥大等
純度 98.5 %	雌:0、10.2、31.0、102		1000 ppm
GLP (資料 5-23)			体重増加抑制、摂餌量減少
			雌
			450 ppm 以上
			体重増加抑制、摂餌量減少
			発がん性は認められない

¹ 代謝活性化系非存在下、22 時間処理において、構造異常が認められた。

食品安全委員会の評価において、「マウス骨髄細胞を用いた in vivo 小核試験を含むその他の試験においては 陰性であり、ピジフルメトフェンには生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。」とされて いる。

18 か月間発がん性 マウス 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料 5-24)	0、75、375、2250 ppm 雄:0、9.2、45.4、288 雌:0、9.7、48.4、306	雄:45.4 雌:48.4	2250 ppm ² 雄:肝細胞腺腫及び癌の増加、体重増加抑制、摂餌量減少、肝絶対及び補正重量増加、小葉中心性肝細胞肥大等 雌:体重増加抑制、摂餌量減少
生殖・発生毒性			
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	
2世代繁殖毒性 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料5-25)	雄: 0、150、750、4500 ppm 雌: 0、150、450、1500 ppm P雄: 0、9.1、46.1、277 P雌: 0、11.9、36.1、116 Fı雄: 0、11.9、59.1、364 Fı雌: 0、14.1、42.4、141	親動物 P雄: 46.1 P雌: 116 F ₁ 雄: 59.1 F ₁ 雌: 141 児動物 P雄: 46.1 P雌: 36.1 F ₁ 雄: 59.1 F ₁ 雌: 42.4	親動物 雄4500 ppm 体重増加抑制、摂餌量減少、肝及び 甲 状腺絶対及び補正重量増加、び漫性 肝 細胞肥大、甲状腺ろ胞上皮細胞肥大 雌1500 ppm 毒性所見なし 児動物 雄4500 ppm 体重増加抑制、包皮分離遅延 雌1500 ppm 体重増加抑制、整開口遅延
発生毒性 ラット	0、10、30、100 (妊娠6~19日投与)	母動物:30 胎児:100	繁殖能に対する影響は認められない 母動物 体重増加抑制
農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % GLP (資料5-26)	(好物で)~19日1次子))后 /C:100	ドローター ドローター ドローター ドロータ ドロータ ドロータ ドロータ ドロ
発生毒性 ウサギ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度98.5 % GLP (資料5-27)	0、10、100、500 (妊娠6~27日投与)	母動物:500 胎児:500	母動物及び胎児 毒性所見なし 催奇形性は認められない
神経毒性			
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	
急性神経毒性 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度98.5 % GLP (資料 5-28)	雄:0、300、1000、2000 雌:0、100、1000、2000	雄:300 雌:100	2000 mg/kg 体重 雄:体重減少/増加抑制 雌:円背位、立毛、体温低下、自発運 動量減少等 1000 mg/kg 体重 雄:体重減少/増加抑制 雌:立毛、自発運動量減少等 急性神経毒性は認められない

² 食品安全委員会の評価において、「雄で肝細胞腺腫及び癌の発生頻度増加が認められたが、メカニズム試験及び 遺伝毒性試験の結果から、腫瘍発生機序は遺伝毒性メカニズムによるものとは考え難く、評価に当たり閾値を 設定することは可能であると考えられた。また、メカニズム試験の結果から、ピジフルメトフェンによる肝細 胞腫瘍発生機序のヒトへの外挿性は低いと考えられた。」とされている。

急性神経毒性	雌:0、100、300、1000	雌:100	1000 mg/kg 体重
ラット			振戦、体温低下、自発運動量減少
農薬原体、Lot. SMU2EP12007			300 mg/kg 体重以上
純度98.5%			体温低下、自発運動量減少等
GLP (資料 5-29)			急性神経毒性は認められない
生体機能への影響			
	投与量	MOET	
試験の種類	(mg/kg 体重) (投与経路)	NOEL (mg/kg 体重)	結果
一般状態(Irwin 法)	雌:0、100、300、2000	100	300 mg/kg 体重以上
ラット	(経口)		切迫と殺(300、1000 mg/kg 体重で各 1例)、無気力、警戒性低下、驚愕反応低下、正面反射消失、異常呼吸、異常姿勢、異常歩行、立毛、体幹筋緊張低下、散瞳
自発運動量 ラット			100 mg/kg 体重以上 自発運動量減少(投与 1~6 時間後)
		100	a thereon t
体温 ラット		100	300 mg/kg 体重以上 体温低下(投与 1~6 時間後)
フット			体温低下(仅子 I~0 时间传)
農薬原体、Lot. SMU2EP12007			
純度 98.5 %			
GLP (資料 5-30)			
呼吸数、換気量	雌:0、100、200	200	影響なし
ラット	(経口)		
) 岳网 七尺) 长米		100	200 1 14-5
心電図、血圧、心拍数 ラット		100	200 mg/kg 体重 QT 間隔延長(投与 30 分~6 時間後) 心拍数減少(投与 3~4 時間後) 血圧上昇(投与 30 分~5 時間後)
体温		100	300 mg/kg 体重以上
ラット			体温低下(投与2時間以降)
曲速度化 I · CMUSED12005			
農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %			
その他 (メカニズム等)	I		•
∆#4 <i>€</i>	投与量		公田
試験	(mg/kg 体重/日)		結果
発がん性作用機序検討	雄:0、75、2250 ppm		と与群では、投与2日後から小葉中心性肝
マウス	28 日間混餌		^{どった肝絶対及比重量増加、BrdU 標識率}
農薬原体、Lot. SMU2EP12007			0 量増加及び PROD 活性増加が認められ
純度 98.5 %		た。	
(資料 5-32)		I	率増加は投与7日以降75 ppm 投与群でも
		認められた。	

マウス培養肝細胞 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (資料 5-33)	発がん性作用機序検討	0,5,10,25,35 μmol/L	ピジフルメトフェン投与群において、ATP 含有量の
腰栗原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (資料 5-33)			
総度 98.5 % (資料 5-33)			
管料 5-33			
上)では PROD 活性及び BROD 活性の減少がみられ、ビジフルメトフェンが PROD 活性及び BROD 活性を阻害したためと考えられた。高濃度に と ト培養肝細胞 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (資料 5-34) CAR3 (ヒト、マウス及びラット) レポーターアッセイ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (でする) と サンボーターアッセイ 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (でする) と サンボーター PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、ア PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、ア PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、PROD 活性及び LAH 活性の明確な増加が認められ、PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められた。 また、P450 量並びに EROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。 以上の結果から、ビジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 リンエの結果が、CAR の直接口投与毒性試験(資料 9-12)の雄の肝臓 サンブルを用いて、チロキシンを基質とした肝ミクロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 こ PT で、PCO 活性との増加が認められた。 ア PT で、PCO 活性の増加が認められた。 PO T PT で、PCO 活性の増加が認められた。 PO T PT で、PCO 活性の増加が認められた。 PO T PT で、PCO T T T PT T T T T T T T T T T T T T T T			
展薬原体、Lot. SMU2EP12007 機度 98.5 %	(32)110 00)		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
阻害したためと考えられた。			
とト培養肝細胞 に PROD 活性及び BROD 活性を誘導した。高濃度に おいては、細胞毒性のため酵素活性の増加は軽度であった。Brd以 (資料 5-34)			
農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (資料 5-34) CAR3 (ヒト、マウス及びラッ D. 1.3、10、30 mol/L D. 1.3、10 mol/L D. 1.3 *** E	発がん性作用機序検討	0,5,10,25,35 μmol/L	ピジフルメトフェンは、10 μmol/L まで PB と同様
 純度 98.5 % (資料 5-34) CAR3 (ヒト、マウス及びラット) レポーターアッセイ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 検験 5.35) 肝薬物酵素発現影響検討 マウス 度等 5-35) 肝薬物酵素発現影響検討 であることが示唆された。 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (資料 5-36) 肝ミクロソーム UDPGT 影響ラット 及びラットの と名3・では性がとりであることが示唆された。 肝ミクロソーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 肝球像ペルオキシダーゼ活性 0,0.007,0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット。 機薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 一方で (0,0.007,0.1、1.5、10 □mol/L 測定 アット) 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 	ヒト培養肝細胞		に PROD 活性及び BROD 活性を誘導した。高濃度に
(資料 5-34) CAR3 (ヒト、マウス及びラット) レポーターアッセイ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % に資料 5-35) 肝薬物酵素発現影響検討でウス 28 日間混餌 の、500、1500、4000、7000 ppm 28 日間混餌 の、500、1500、4000、7000 ppm 28 日間混餌 に資料 5-36) 肝きりに ソーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 中状腺ペルオキシダーゼ活性 初、0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット 機薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	農薬原体、Lot. SMU2EP12007		おいては、細胞毒性のため酵素活性の増加は軽度であ
CAR3 (ヒト、マウス及びラット) レポーターアッセイ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 (資料 5-35)	純度 98.5 %		った。BrdU 標識率の増加は認められず、細胞増殖は認
ト)レポーターアッセイ 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (資料 5-35) 肝薬物酵素発現影響検討 マウス 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (資料 5-36) 肝ミクロソーム UDPGT 影響 ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 別定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 「グラットの CAR3 の直接的活性化を介した CYP2B6 プロモーター活性化による転写活性の上昇が認められ、ピジフルメトフェンはヒト、マウス及びラット由来 CAR の直接活性化物質であることが示唆された。 ビジフルメトフェン投与群において、P450 量並びに PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、PROD 活性及び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。 また、P450 量並びに EROD 活性及び BA 行性とおいては雌雄とも経時的な増加が認められた。 以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 「クリーム UDPGT 影響 ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % 「で資料 5-37) 「アロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 「アロソーム UDPGT 活性の増加が認められたの影響を検討結果、250 ppm 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 「アログ 活性に対する影響は認められなかった) 「アログ 活性に対する影響は認められなかった) 「アログ 活性に対する影響は認められなかった)」 「アログ 活性の増加が認められた。」 「アログ 活性の増加が認められた。」 「アログ 活性及び BA では、PROD 活性及が BA では、PROD 活性及 BA では、PROD AA では、PROD AA では、PROD AA では、PROD AA では、PROD AA では、PROD AA では、PROD	(資料 5-34)		められなかった。
農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % (資料 5-35)ロモーター活性化による転写活性の上昇が認められ、 ピジフルメトフェンはヒト、マウス及びラット由来 CAR の直接活性化物質であることが示唆された。肝薬物酵素発現影響検討マウス 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (資料 5-36)0、500、1500、4000、7000 ppm 28 日間混餌ピジフルメトフェン投与群において、P450 量並びに PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、PROD 活性 選び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。 また、P450 量並びに EROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。 以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。肝ミクロソーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37)90 日間反復経口投与毒性試験(資料 9-12) の雄の肝臓サンプルを用いて、チロキシンを基質とした肝ミクロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。甲状腺ペルオキシダーゼ活性 フット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %0、0.0007、0.1、1.5、10 □mol/L 利定 	CAR3(ヒト、マウス及びラッ	0,1,3,10,30 mol/L	ピジフルメトフェンの添加により、ヒト、マウス及
 純度 98.5 % (資料 5-35) 旧薬物酵素発現影響検討マウス 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (資料 5-36) 日間混餌 ビジフルメトフェン投与群において、P450 量並びにPROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、PROD 活性及び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。また、P450 量並びに EROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。リーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 機度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 切、0,0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 	ト) レポーターアッセイ		びラットの CAR3 の直接的活性化を介した CYP2B6 プ
 (資料 5-35) CAR の直接活性化物質であることが示唆された。 肝薬物酵素発現影響検討マウス 28 日間混餌 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6% (資料 5-36) (資料 5-36) (資料 5-36) 肝ミクロソーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5% GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5% CAR の直接活性化物質であることが示唆された。 ピジフルメトフェン投与群において、P450 量並びに EROD 活性、EROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。 以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 90 日間反復経口投与毒性試験(資料 9-12)の雄の肝臓サンプルを用いて、チロキシンを基質とした肝ミクロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 TPO 活性に対する影響は認められなかった TPO 活性に対する影響は認められなかった TPO 活性に対する影響は認められなかった	農薬原体、Lot. SMU2EP12007		ロモーター活性化による転写活性の上昇が認められ、
 肝薬物酵素発現影響検討マウス 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6% (資料 5-36) 肝ミクロソーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5% GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 別定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5% ロ、500、1500、4000、7000 ppm 28 日間混餌 ビジフルメトフェン投与群において、P450 量並びに EROD 活性、EROD 活性及び BQ 活性及び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。また、P450 量並びに EROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 90 日間反復経口投与毒性試験(資料 9-12)の雄の肝臓サンプルを用いて、チロキシンを基質とした肝ミクロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。カース・ファーム UDPGT 活性の増加が認められた。 TPO 活性に対する影響は認められなかった TPO 活性に対する影響は認められなかった 	純度 98.5 %		ピジフルメトフェンはヒト、マウス及びラット由来
マウス 農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (資料 5-36) 28 日間混餌 PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、PROD 活性の増加が顕著であった。一方で、PCO 活性、EROD 活性及び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。また、P450 量並びに EROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 明ミクロソーム UDPGT 影響ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 切、0.0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	(資料 5-35)		CAR の直接活性化物質であることが示唆された。
農薬原体、Lot. 2491-DC/110 純度 98.6 % (資料 5-36) (資料 5-37) (日間 (資料 5-37) (日 (肝薬物酵素発現影響検討	0,500,1500,4000,7000 ppm	ピジフルメトフェン投与群において、P450 量並びに
 純度 98.6 % (資料 5-36) 活性及び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。また、P450 量並びに EROD 活性、PROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 FTミクロソーム UDPGT 影響ラット農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性の、0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 	マウス	28 日間混餌	PROD 活性及び BQ 活性の増加が認められ、PROD 活
また、P450 量並びに EROD 活性、PROD 活性及び BQ 活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。 以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。	農薬原体、Lot. 2491-DC/110		性の増加が顕著であった。一方で、PCO 活性、EROD
活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。 以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 肝ミクロソーム UDPGT 影響 ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	純度 98.6 %		活性及び LAH 活性の明確な増加は認められなかった。
以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導物質と共通する特性を示していると考えられた。 FF ミクロソーム UDPGT 影響 ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	(資料 5-36)		また、P450 量並びに EROD 活性、PROD 活性及び BQ
物質と共通する特性を示していると考えられた。 肝ミクロソーム UDPGT 影響 90 日間反復経口投与毒性試験(資料 9-12)の雄の肝臓サンプルを用いて、チロキシンを基質とした肝ミクロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm 純度 99.5 % 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %			活性においては雌雄とも経時的な増加が認められた。
肝ミクロソーム UDPGT 影響 ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %			以上の結果から、ピジフルメトフェンは PB 様誘導
ラット 農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %			物質と共通する特性を示していると考えられた。
農薬原体、Lot. 2637-BA/110 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	肝ミクロソーム UDPGT 影響		90 日間反復経口投与毒性試験(資料 9-12)の雄の肝
 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 TPO 活性に対する影響は認められなかった 	ラット		臓サンプルを用いて、チロキシンを基質とした肝ミク
 純度 99.5 % GLP (資料 5-37) 甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 % 以上投与群において、UDPGT 活性の増加が認められた。 TPO 活性に対する影響は認められなかった 	農薬原体、Lot. 2637-BA/110		ロソーム UDPGT 活性への影響を検討結果、250 ppm
甲状腺ペルオキシダーゼ活性 0、0.007、0.1、1.5、10 □mol/L 測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %			
測定 ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	GLP (資料 5-37)		た。
ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	甲状腺ペルオキシダーゼ活性	0,0.007,0.1,1.5,10 \(\text{mol/L} \)	TPO 活性に対する影響は認められなかった
ラット 農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %	測定		
農薬原体、Lot. SMU2EP12007 純度 98.5 %			
純度 98.5 %			
	純度 98.5 %		
	(資料 5-38)		

ピジフルメトフェンは、食品安全委員会において評価がなされており、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験の体重増加抑制及び摂餌量減少に対する NOAEL 9.9 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 0.099 mg/kg 体重/日が許容一日摂取量 (ADI) として設定されている。また、ラットを用いた発生毒性試験の体重増加抑制に対する NOAEL 30 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 0.3 mg/kg 体重が急性参照用量 (ARfD) として設定されている。

食品安全委員会による評価

(URL: https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20190417076)

ピジフルメトフェンの農薬原体の組成に係る評価報告書

令和2年8月25日 農業資材審議会農薬分科会検査法部会(第9回)

6. 不純物の毒性

農薬の製造に用いられるピジフルメトフェンの農薬原体中に含有されている不純物には、 考慮すべき毒性を有する不純物は認められなかった。

7. 農薬原体の同等性

農薬の製造に用いられるピジフルメトフェンの農薬原体と毒性試験に用いられた農薬原体 は、その組成及び毒性を比較した結果、同等であった。

評価資料

		表題、出典(試験施設以外の場合)	
資料	報告年	試験施設、報告書番号	提出者
番号	TK II I	GLP 適合状況(必要な場合)、公表の有無	
		農薬原体の組成に係る審査報告書 ピジフルメトフェン	
		農林水産省消費・安全局農産安全管理課、独立行政法人農林水産消費安全技術	
	2020	センター	_
		未公表	
		農薬評価書 ピジフルメトフェン 食品安全委員会	
	2019		_
		SYN545974 Vapour Pressure Amendment No. 2 to Final Report	シンジェンタ
3-1	2016	Syngenta Biosciences Pvt.Ltd Study No.: SMG11739	ジャパン(株)
		GLP、未公表	1 1
		SYN545974 Determination of Melting Temperature Final Report	シンジェンタ
3-2	2012	Harlan Laboratories Ltd. Report No.: 41203898	ジャパン(株)
		GLP、未公表	1
	2012	SYN545974 Determination of Boiling Temperature Final Report	シンジェンタ
3-3	2012	Harlan Laboratories Ltd. Report No.: 41203899	ジャパン(株)
		GLP、未公表	
2.4	2012	SYN545974 Thermal Stability / Stability in Air Final Report	シンジェンタ
3-4	2012	Syngenta Technology & Engineering Report No.: 10514986	ジャパン(株)
		GLP、未公表	
2.5	2012	SYN545974 Solubility in water Final Report	シンジェンタ
3-5	2012	Syngenta Biosciences Pvt.Ltd Study No.: SMG11737	ジャパン(株)
		GLP、未公表	
•	2012	SYN545974 Solubility in Organic Solvents Final Report	シンジェンタ
3-6	2012	Syngenta Biosciences Pvt.Ltd Study No.: SMG11891	ジャパン(株)
		GLP、未公表	
2.7	2012	SYN545974 Determination of Dissociation Constants in Water Final Report	シンジェンタ
3-7	2013	Harlan Laboratories Ltd. Report No.: 41206681	ジャパン(株)
		GLP、未公表 SYN545974 Octanol / Water Partition Coefficient Final Report	
2.0	2012	Syngenta Biosciences Pvt.Ltd Study No.: SMG11738	シンジェンタ
3-8	2012	GLP、未公表	ジャパン(株)
		I ⁴ C-SYN545974: Hydrolysis in Sterile Buffer at pH 4, 7 and 9	
3-9	2015	Smithers Viscient Ltd, 3200053	シンジェンタ
5-7	2013	GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Aqueous Photolysis of [14C] SYN545974	
3-10	2015	Smithers Viscient Ltd、3200127	シンジェンタ
		GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 – Spectra Amendment No.2 to Final Report	シンジェンタ
3-11	2015	Syngenta Crop Protection Münchwilen AG Report No.: CHMU140550	シンンエンタ ジャパン(株)
		GLP、未公表	ンヤハン(株)
		SYN545974 – Analysis of Five Representative Batches	シンジェンタ
4-1	2015	Syngenta Crop Protection Münchwilen AG Report No.: CHMU150224	ジャパン(株)
	<u> </u>	GLP、未公表	ノヤハン(4本)
		SYN545974 - Pharmacokinetics of [Phenyl-U-14C] and	
5-1	2015	[Pyrazole-5-14C]- SYN545974 Following Single Oral and Intravenous	シンジェンタ
		Administration in the Rat.	ジャパン(株)
	1	GLP、未公表 SYN545974 - The Absorption and Excretion of [Phenyl-U-14C] and	
		LATING 1974 - THE ADSOLUTION AND EXCLETION OF PROPOSITIONAL LAND	1 .
5-2	2015	[Pyrazole-5-14C]-SYN545974 Following Single Oral Administration in the Rat.	シンジェンタ ジャパン(株)

1	1	T BZ 11.44 /3.NEX.45-30.01.41 o. 10. A.)	
資料	却化仁	表題、出典(試験施設以外の場合)	## III # *
番号	報告年	試験施設、報告書番号 GLP 適合状況(必要な場合)、公表の有無	提出者
		SYN545974 - Tissue Depletion of [Phenyl-U-14C] and	
5-3	2015	[Pyrazole-5-14C]-SYN545974 Following Single Oral Administration in the Rat.	シンジェンタ
	2010	GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Biotransformation of [14C]-SYN545974 in Rat.	シンジェンタ
5-4	2015	Final Report Amendment 1	ジャパン(株)
		GLP、未公表	V (V (V (V (V (V (V (V (V (V (
5-5	2015	SYN545974 - The Excretion and Biotransformation of [Phenyl-U-14C] and [Pyrazole-5-14C]-SYN545974 Following Single Oral Administration in the Mouse.	シンジェンタ
5-5	2013	GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Acute Oral Toxicity Study in the Rat (Up and Down Procedure).	シンジェンタ
5-6	2012	GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Acute Dermal Toxicity Study in Rats.	シンジェンタ
5-7	2013	GLP、未公表	ジャパン(株)
			` ′
5-8	2013	SYN545974 - Acute Inhalation Toxicity Study (Nose-Only) in the Rat. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
		· ·	. ()
5-9	2012	SYN545974 - Primary Skin Irritation Study in Rabbits.	シンジェンタ
	2012	GLP、未公表	ジャパン(株)
5-10	2012	SYN545974 - Acute Eye Irritation Study in Rabbits.	シンジェンタ
3-10	2012	GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Local Lymph Node Assay in the Mouse.	シンジェンタ
5-11	2013	GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - A 13 Week Toxicity Study of SYN545974 by Oral	
5-12	2015	(Dietary) Administration in Rats. (Final Report Amendment 2)	シンジェンタ ジャパン(株)
		GLP、未公表	ンヤハン(株)
	2015	SYN545974 - A 13 Week Toxicity Study of SYN545974 by Oral	シンジェンタ
5-13	2015	(Dietary) Administration in Mice. (Final Report Amendment 2) GLP、未公表	ジャパン(株)
			2.3.23
5-14	2015	SYN545974 - 90 Day Oral (Capsule) Study in the Dog. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
			` ′
5-15	2015	SYN545974 - 52 Week Oral (Capsule) Toxicity Study in the Dog.	シンジェンタ
		GLP、未公表	ジャパン(株)
	2012	SYN545974 - 28-Day Dermal Toxicity Study in the Wistar Rat.	シンジェンタ
5-16	2013	(Final Report Amendment 1) GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Salmonella Typhimurium and Escherichia Coli Reverse	
5-17	2012	Mutation Assay.	シンジェンタ
		GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Salmonella Typhimurium and Escherichia Coli Reverse	シンジェンタ
5-18	2014	Mutation Assay. GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Cell Mutation Assay at the Thymidine Kinase Locus (TK+/-) in	
5-19	2013	Mouse Lymphoma L5178Y Cells.	シンジェンタ
		GLP、未公表	ジャパン(株)
		SYN545974 - Chromosome Aberration Test in Human Lymphocytes In Vitro.	シンジェンタ
5-20	2013	(Final Report Amendment 2)	ジャパン(株)
		GLP、未公表	3.3.33
5-21	2012	SYN545974 - Micronucleus Assay in Bone Marrow Cells of the Mouse. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
	1		` ´
5-22	2014	SYN545974 - Micronucleus Assay in Bone Marrow Cells of the Mouse.	シンジェンタ
	1	GLP、未公表	ジャパン(株)

資料		表題、出典(試験施設以外の場合)	
番号	報告年	試験施設、報告書番号 GLP 適合状況(必要な場合)、公表の有無	提出者
5-23	2015	SYN545974 - 104 Week Rat Dietary Carcinogenicity Study with a Combined 52 Week Toxicity Study. (Final Report Amendment 1) GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-24	2015	SYN545974 - 80 Week Mouse Dietary Carcinogenicity Study. (Final Report Amendment 3) GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-25	2015	SYN545974 - Oral (Dietary) Two-Generation Reproduction Toxicity Study in the Rat. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-26	2015	SYN545974 - Oral (Gavage) Prenatal Developmental Toxicity Study in the Rat. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-27	2015	SYN545974 - Oral (Gavage) Prenatal Developmental Toxicity Study in the Rabbit. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-28	2015	SYN545974 - Acute Oral (Gavage) Neurotoxicity Study in the Wistar Rat. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-29	2015	SYN545974 - An Abbreviated Acute Oral (Gavage) Neurotoxicity Study in the Female Wistar Rat. GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-30	2016	SYN545974 - Modified Irwin Study in Female Rats (Single Oral Administration). GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-31	2016	SYN545974 - Evaluation of the Cardiovascular System and Respiratory Parameters in the Conscious Rat using Telemetry and Whole Body Bias Flow Plethysmography (Oral Administration). GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-32	2015	SYN545974 - A 28-Day Dietary Liver Mode of Action Study in Male CD-1 Mice. 未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-33	2015	SYN545974 - In Vitro Hepatocyte Proliferation Index and Enzyme Activity Measurements in Male CD-1 Mouse Hepatocyte Cultures. 未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-34	2015	YN545974 - In Vitro Hepatocyte Proliferation Index and Enzyme Activity Measurements in Male Human Hepatocyte Cultures. 未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-35	2014	SYN545974 - CAR3 Transactivation Assay with Mouse, Rat and Human CAR. 未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-36	2012	EX-vivo Enzyme Analysis of Liver Samples Taken at Termination of a 28 Day Dietary Study of SYN545974 and SYN546022 in the Mouse. 未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-37	2014	SYN545974 - Effect on Hepatic UDPglucuronosyltransferase Activity Towards Thyroxine as Substrate After Dietary Administration for 90 Days to Male Rats. (Final Report Amendment 1) GLP、未公表	シンジェンタ ジャパン(株)
5-38	2014	SYN545974 - Effect on Rat Thyroid Peroxidase Activity In Vitro. (Final Report Amendment 1) 未公表	シンジェンタ ジャパン(株)